

以東岳 (以東ヶ岳)

大和工営一等三角点の会

(冠字番号 以 第6号)

成果 X=-183486.319m
Y=-86039.163m
標高 1771.92m

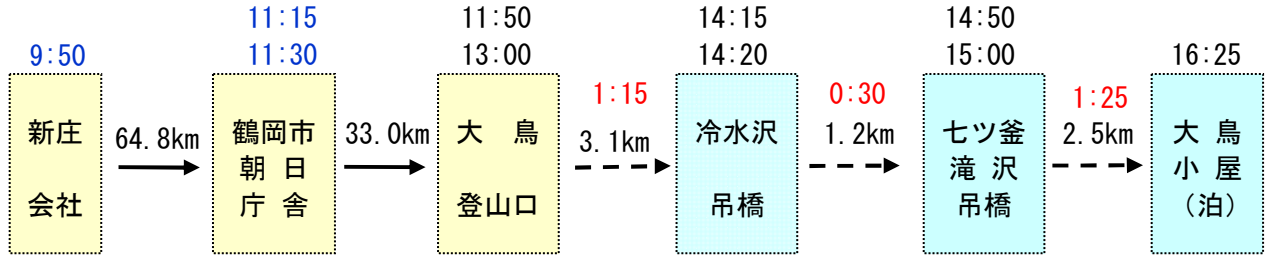
世界測地系「測地成果2011」

| | | | | |
|-------|--------------------------------|--|-----|----------------------------|
| 点の記抜粹 | 選点埋観 | 明治28年6月10日 平成一年一月一日 明治31年7月25日 平成8年7月29日 (備考)平成8年8月10日更新、高度基準点測量 | 選点者 | 館 潔彦 — 吉田林太郎 山内 洋 |
| 所在 | 山形県東田川郡朝日村大字大鳥字深谷現 (114 林班口小班) | | | |

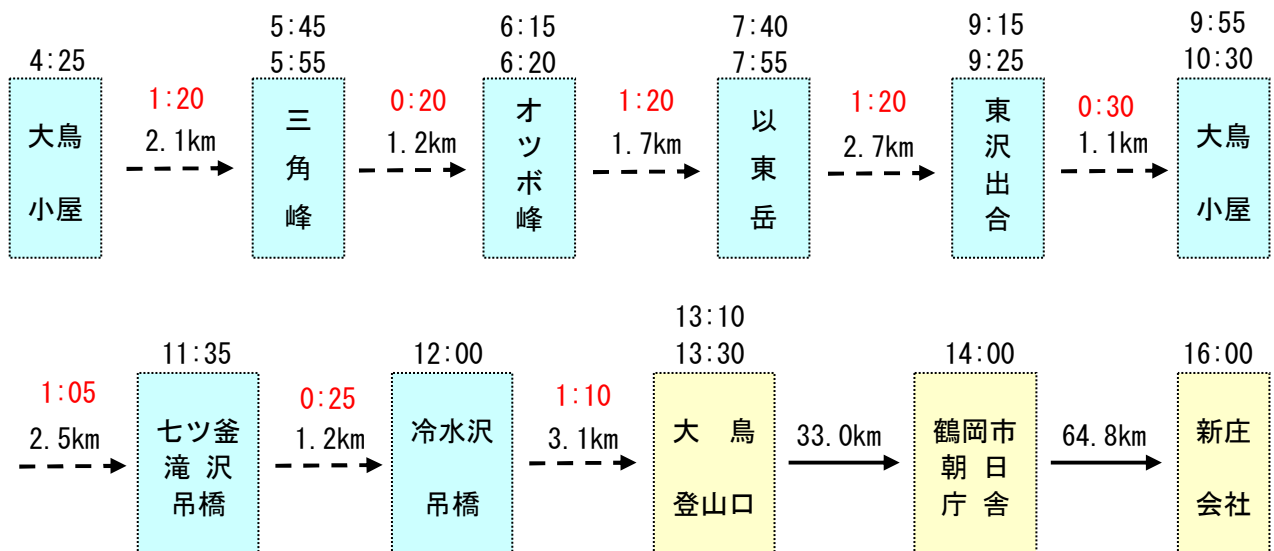
登山日 2016年6月25日(土)~6月26日(日)

コースタイム 全行程 12:10 (歩行時間、往路6:10 復路4:30 計10:40) ※赤字は所要時間

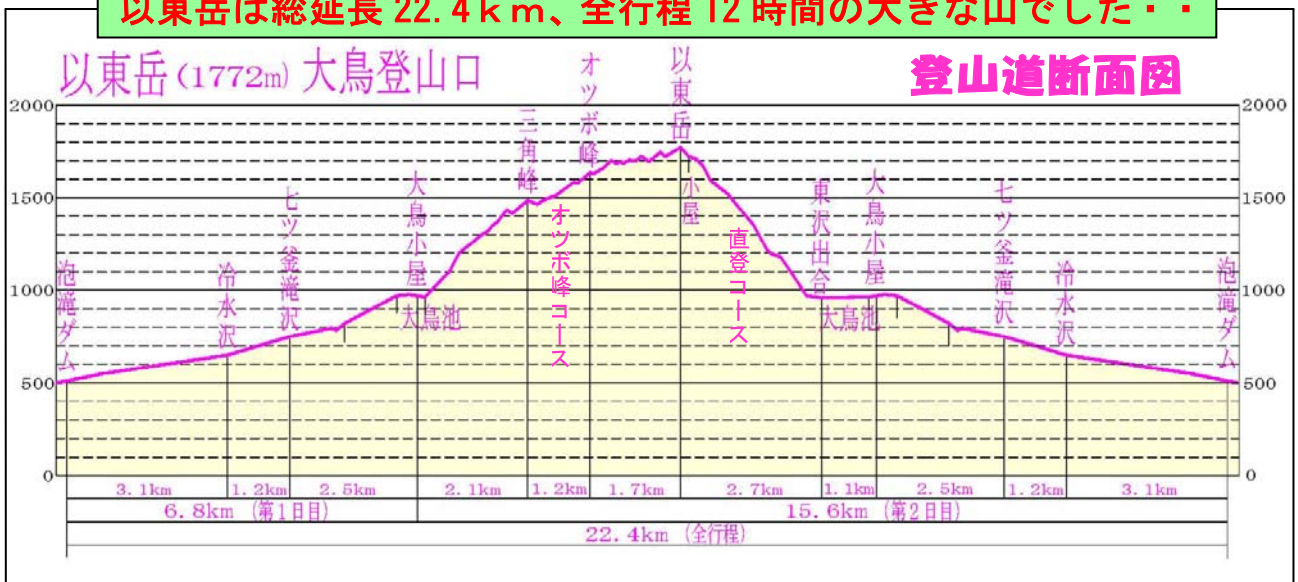
第1日目(25日) 延長、車: 97.8km、登山道: 6.8km。



第2日目(26日) 延長、車: 97.8km、登山道: 15.6km。登山道総延長: 22.4 km。



以東岳は総延長 22.4 km、全行程 12 時間の大きな山でした・・・



タキタロウのふるさと以東岳へ

以東岳へのアプローチ

私達の会が山形県の21の一等三角点を完登するうえで、以東岳は遠くて険しい山の存在であった。なおかつ山頂に至るアプローチは長い。しかしいつかは登らなければならない山である。朝日連峰の西端に聳える以東岳には、まぼろしの高山植物といわれる「ヒメサユリ」や、山頂の眼下にはタキタロウ伝説が語り継がれてきた大鳥池の存在など、神秘的な天空の世界が広がっている。

1978年（昭和53年）8月3日、山形県酒田市で最高気温40.1°を記録し、暑さのあまりセミが木から落ちてきたと噂されたことがあった。台風一過の晴天で気温がグングン上昇した。同じ日、私（筆者）は朝日連峰縦走のため、単独で朝日町白滝コースから二泊三日の予定で入山していた。その時、縦走路終点の以東岳の山頂にある以東小屋に宿泊した。小屋は無人で同じく単独で縦走してきた神奈川の方と同宿となった。私はまだ山の初心者で、彼はベテラン？に思えた。丹沢や関東の山談義に聞き入っていた。翌日も天候は素晴らしく、眼下には標高966mに広がる大鳥池が輝いて見えていた。遙かに遠い昔の話になってしまった。が、もう一度。以東岳の山頂から大鳥池を眺めて見たいと思いつけていた。それが年を重ねるにつれて目標から憧れへ、憧れから夢へと思いが変化していた。それが「大和工営一等三角点の会」の活動で、再び目標となり、登山計画を策定して実施することになった。遠い追憶をたぐり寄せて大鳥池に思いをはせている。問題は天候に恵まれるか否かである。

2014年（平成26年）9月6日～8日実施 タキタロウの生息調査



タキタロウの生息調査を行うメンバー
＝7日、鶴岡市・大鳥池

探知機 水深30m 魚

タキタロウ 鶴岡市の大鳥池に生息するとされる巨大魚。大鳥池は、朝日連峰の以東岳（標高1771m）オツボ峰（1640m）三角峰（1520m）などに囲まれ、山崩れでできたせき止め湖とみられている。昭和期から続く目撃情報などから、タキタロウは体長約2mで、群生していると伝えられてきた。1983（昭和58）年から3年間の調査では、体長80cmの魚種不明の魚を捕獲し、鶴岡市のタキタロウ館に割製を展示。人気釣り漫画「釣りキチ三平」の題材にもなり、大自然が育むロマンが登山家や釣り愛好家を引き付けている。

2014年9月9日付山形新聞より



以東岳（以東ヶ岳）は山形県の上顎の位置です



鶴岡市・あさひむら観光協会設置(大鳥登山口)

登山時期とルートを選択・・・

いよいよ以東岳に登る時がきた。情報収集すると山頂の以東小屋が破損のため昨年9月に解体撤去されている。総延長22km余りの行程を日帰りでは無理である。そして夏至の頃の日中の時間が長い時期がベストと考えた。ルートは大鳥口から入山して大鳥小屋で一泊し、翌日は早朝に出発してオツボ峰経由で以東岳に登る。その後は直登コースを下り、大鳥小屋経由で帰る一泊二日の行程にした。残るは天候であるが、こればかりは予定の立たない事なのでひたすら「運」に頼るのみである。



路傍にたつ朝日連峰の案内板を過ぎて・・・

泡滝ダムから大鳥池へ・・・

そんなわけで、第1日目は午後4時までに大鳥小屋に着く予定で、新庄(会社)をAm9:50に出発した。メンバーはゲスト1名の方を含めて3名である。途中で買い物をして大鳥登山口の泡滝ダムにはAm11:50に到着した。天気予報は、今日は雨のち曇、明日は曇とのことだが、「山の天気」はまた別口かもしれない。台風が来ているわけでもないから山頂には登れるだろうと思っていた。林道の路肩が広がったところが駐車場で2箇所あった。両方合わせて40台近くは駐車可能に思えた。早速、昼食をとり登山の身支度を整えた。



広い路肩の駐車場に車をとめて・・・



歩き出すとすぐに泡滝ダムとご対面し・・・

登山者数計測カウンター、ありました・・・

駐車場には私達の車を含めて4台しかなかった。「庄内ナンバー」の軽トラックは山小屋の管理人の車かな?なんて勝手に思い込んでいた。

予定より30分遅れることPm1:00に登山を開始した。道路の舗装は泡滝ダムで途切れていて、砂利道に変わった。すぐに左手に登山口の指導標があり以東岳に続く歩道に足を踏み入れた。平坦な道を進むと変な工作物が現れた。何だろうと覗き込んだ処、環境省の登山者数計測器であった。



大鳥登山口での証拠写真を撮る・・・



計測器の前で立ち止まらないで、と注意書

揺れる冷水沢の吊橋・・・

登山道は一級河川赤川の源流の東大鳥川をさかのぼり、大鳥池へと続いている。最初は平坦な道で足馴染には丁度いい感じである。

ゆったり歩きながら1時間15分進むと「冷水沢の吊橋」が現れた。がっしりした吊橋で下を流れる冷水沢の流れも穏やかに流れている。吊橋は大きく揺れるものの、難なく渡ることができた。



水がとてもきれいな渓谷です・・・

東大鳥川源流をさか登り・・・



冷水沢の吊橋、ケッコウ揺れました・・・

めまい 目眩がする程の七ツ釜滝の吊橋・・・

吊橋を渡り終えた処が広場になっていた。そこで小休止しザックからペットボトルを取り出して喉を潤した。そこから30分程進むと七ツ釜沢の吊橋が見えてきた。吊橋のたもとで下の沢を眺めた。大鳥池から流れでた本流が岩に当たりながら轟音を響かし荒々しく流下している。渡り始めると吊橋の揺れる波長と歩くリズムが合体した処で揺れが増幅した。視線を川の流れに落とすと「めまい」のような感じがした。立ち止まり振れが鎮まるのを待ち、そしてまた渡る。それを2、3度繰り返してようやく吊橋を渡りきった。



視界がひらけたが、稜線は雲の中・・・



七ツ釜滝の吊橋、目眩がするほど揺れるんデス・・・

吊橋を渡り終え、胸をなで下ろす・・・

後続の二人もおっかなビックリ？慎重に渡り終えた。改めてその吊橋を眺めながら「ホッ」と胸をなで下ろした。踵を返して歩き出した。10分程進むと水場があった。ここで2合の米を入れたビニール袋を取り出して沢水を入れた。

大鳥池への道は何処だ・・・

そこからしばらく進むと沢沿いに続く道との分岐について。七曲の下のようなだが踏み跡がハッキリしない。上の方に視線をやり、目で左右になぞってみた。すると前方にピンク色のテープを発見した。まさしく七曲下。大鳥池に続く道だ。



いよいよ本格的な登山道になる・・・

大鳥小屋は貸し切り状態??..

七曲（下山時に数えてもたら16曲??）を登り始めた。登山道は濡れていて滑りやすくなっていた。途中、ショートカットされた近道が多くみられたが、その場所は枯れ枝で塞がれていて「進入禁止」を呼び掛けているように思われた。七曲の急坂を滑って転ばないように注意しながら登り詰めて行った。50分程で七曲を登り切り、平坦となった登山道を歩いていくとブナの樹林の間から大鳥池を目にした。木々は霧で濡れていて、周囲の山は雲の中に隠されていた。そこから大鳥小屋には数分で到着した。



ブナの間から大鳥池の湖面が現る..

別名タキタロウ小屋に到着.. 山小屋の玄関を開けて中に入った。が人の気配がない。外に出て周りを見渡してみると下の炊事場に人影が見られた。そしてそこに近づいて行くと向こうから「今日は泊まりか？」と聞いてくる。どうやらその方が山小屋の管理人のようなので「今晚お世話になります」と挨拶をした。「何か詰まったのか水の出が悪くて..」と「水場の修理」をしていた。「泊まる場所は何処でもいい。後で水を汲んで小屋に持って行くから」と言葉を続けた。大鳥小屋は2階建てで収容人員100名の避難小屋である。今日は私達以外の登山者は誰もいない。目の前の大鳥池は霧に霞んで対岸は見えない。夏至から数日しか経っていないが、霧に包まれた山小屋の夕暮れは意外と早い。ザックから水を浸しておいた米の袋を取り出し夕食の支度にかかる。



大鳥小屋は池の高台にありました..



またの名を「タキタロウ山荘」という

山男の飯炊き?は如何に...

今宵のメニューはカレーライスである。ご飯を炊き、カレーはもちろん「インスタント」なのでお湯で温めるだけである。問題なのは飯炊きである。

同行の好也さんが、「山でご飯を炊いて、うまくいった試しがない!!」という。が、私には多少自身があった。昔は山に泊まった時はよく「飯炊き」をしたが、それが結構うまくいっていたのである。あれから30数年の空白はあるが、久しぶりの山での「飯炊き」である。袋の中の米はうるけていて、水で洗い流して飯盒に移して携帯コンロで炊き始めた。20分程すると沸騰し飯盒から蒸気が漏れてくる。その臭いを嗅ぎ分けて米の炊き具合を確かめる。そしておいしい炊きあがりの臭いに変わったところでコンロから取り上げ、飯盒の蓋はそのままにひっくり返して板の上に置いた。このまましばらく蒸らしておけばおいしいご飯になっている筈なのだが..。その間、別のコッヘルでお湯をつくり袋入りのままカレーを温めた。

食器に盛りつけて「特製のカレーライス」が完成した。それを食した好也さんから「うまい!!、こんなうまいカレーライスは初めて食べた!!」と最大限のお褒めの言葉が返ってきた。

山小屋の消灯は9時になっているのだが、管理人さんは10時近くまで電気をつけてくれた。「一等三角点の会」の活動でこれまで18の三角点を「登頂」してきたが、宿泊を伴う山行はこの以東岳が初めてである。以東岳に登頂したら残るは福島県境の「飯森山」と酒田の「飛島」のふたつだけになる。あすの好天と登頂を祈りつつ、静かな山小屋での宴は11時頃まで続いた。

濃霧の以東岳を登る・・・

朝4時前に起きた。同行の欽ちゃんが3時頃に「屋根に雨が降る音がした」という。出発はPm4:30頃にした。好也さんは大鳥池までの予定で参加していたが、彼も身支度を始めていた。

雨カッパの出で立ちで出発・・・

Am4:25。戸外は深い霧のため雨カッパを着て大鳥小屋をに出发した。大鳥湖の水門の橋を渡り、直登コースとの分岐に辿りついた。私達は左のオツボ峰の急坂に足を踏みだした。少し登り、好也さんは大鳥小屋に引き返して行った。



この分岐からいきなり急坂になる・・・

稜線は濃霧(ガス)と強い風・・・

急坂を灌木の小枝に掴まりながら登っていった。三角峰(標高 1520m)には Am5:45 に着いた。小休止し呼吸を整えた。そこから少し下った鞍部には残雪があった。尾根に顔を出したためか、少し風が出てきた。その先も景色が望めない分、登山道を黙々と歩いていく。20 分後にオツボ峰(標高 1645m) 到着。稜線部のためか濃霧(ガス)と共に風が強くと打ってくる。路傍のウラジロヨウラクのピンクの花もガスに濡れて雫が滴り落ちている。



高山植物は・・・

ウラジロヨウラク



オツボ峰

メガネもガスで曇ってました

稜線に現れた“幻の花”・・・

オツボ峰から以東岳山頂までは小ピークが連続している。アップダウンを繰り返しながら山頂に近づいて行くのだが、視界が効かない。次のピークが山頂かな? と思って辿り着くとまた下り坂になり落胆した。でも霧の稜線で幻の花といわれるヒメサユリの花に出会うことができた。水墨画の世界と化した霧の稜線に現れたピンク色の清廉な花は、美しい輝きをもって迎えてくれた。強い風と共にガスが全身を濡らして流れていく。期待していた大鳥池の眺望は叶わなかった。でもこの花に出会えたお陰で来て良かったと思えて心が癒やされた。



色濃く、鮮やかで・・・

ハクサンイチゲ



“まぼろしの花”にも会えました・・・

ヒメサユリ(学名はオトメユリ)

いくつもの峰を越えて山頂へ・・・

Am7:45。オツボ峰から数度のピークを乗り越えてようやく以東岳山頂に到着した。朝日連峰の西端に位置する標高 1772mの高峰。谷から吹き上げてくる稜線越えの風が、呼吸をするかのように強弱をつけて全身に吹きつけてくる。思わず身体がよろめく場面もあった。それでもお目当ての一等三角点の柱石とご対面し、証拠写真を撮る。



今度こそ山頂!?



以東岳の三角点

解体撤去された以東小屋・・・

頂上での絶景を堪能しながらの朝食タイムは夢と化した。まずはこの強風から逃れるために、風の穏やかな登山道の窪みまで下山してから朝食をすることにした。朝日連峰縦走路の分岐を過ぎ、解体された以東小屋跡地の傍を通り、直登コースを駆け下った。30分程下ると灌木帯に入った。そして登山道の窪地に陣取り朝食を摂った。



朝日連峰縦走路への指導標



解体撤去された以東小屋跡地・・・

どうする?、沢が増水している・・・

朝食を終え、また濡れた山道を大鳥池の湖畔まで下山した。平坦になった道を歩いて行くと登山道は大鳥池に注ぐ東沢の流れの中に消えていた。沢には飛び石が置かれていたが、増水した沢はその飛び石を水没させていた。沢の幅は5、6m程ある。同行の欽ちゃんに「どうする?」と声をかけると、素直に「漕ぐしかねエベエ」という。沢の流れは勢いがあるが、渡れない程ではない。飛び石は使わず川底を漕ぎ渡った。水深は脹ら脛までであったが、二人とも無事にわたり終えた

朝日連峰縦走の団体客が・・・

Am9:55。再び大鳥小屋に戻り好也さんと合流した。時同じくして10数名の団体が訪れた。彼らは大鳥小屋泊まり、明日、朝日連峰縦走するのだという。明日は天候が回復する予という報である。彼らと入れ替わりに私達は大鳥小屋を後にした。



水門を渡ると大鳥小屋だ・・・